

中国・四国支部

1975年より1987年までに、当科にて多剤併用療法を受けたSCLC182例の治療成績を報告する。奏効率はLD93例中、著効(CR)49%,有効率86%,ED89例ではCR31%,有効率83%であった。全症例の生存期間中央値はLD14.5ヵ月, ED11.1ヵ月であり, 治療別にみるとCOMP療法ではLD11.1ヵ月, ED7.8ヵ月, COMP-VAN交替療法ではLD14.5ヵ月, ED11.3ヵ月, CAV-PVP Hybrid療法ではLD25.8ヵ月, ED12.8ヵ月と生存期間は有意に延長してきている。

3. 肺小細胞癌の長期予後の検討

高松赤十字病院内科

曾根未年生, 葉久貴司
前田道彦, 小林正樹, 吉澤 潔
森田純二

1979年から1987年6月までに我々の施設で肺小細胞癌と診断された45例につき, その長期予後の検討を行った。

治療終了後disease freeの状態にて2年以上生存している例が7例あり, LD6例, ED1例であった。治療法別では化学療法単独群2例, 化学療法, 放射線療法併用群2例, 手術療法群3例であった。7例とも現在再発なく生存中である。

4. Neoadjuvant therapyにて比較的長期生存を得ている肺小細胞癌(stage III A)の1症例

水島協同病院内科 中岡浩一
福田 博, 岡本浩明, 里見和彦
道端達也, 作間忠道, 門田 尚
同 外科 江口孝行, 丸川忠憲
広島大第2内科 徳永 豊
岡山大第2外科 清水信義
聖隷浜松病院外科 戸田 央
症例は昭和60年の検診で右上

葉に4cm大の結節陰影を指摘され入院となった。TBLBで肺小細胞癌(intermediate cell type), 画像診断上stage III Aと診断されPVP療法2クール, 右上葉切除(pTNM分類はpT3G3pN0 pM0), その後PVP療法1クール, CAV療法2クールを行い, 再発徴候をみることなく3年間の生存を得ている。この症例の生存の背景には, 原発巣が末梢であったこと, pN0であったこと, 化学療法でPRであっても外科的に相対的治療切除が行えたことがあげられる。

5. ネフローゼ症候群, 洞不全症候群を併発し, 放射線療法で治癒したと考えられる肺小細胞癌の1例

国立岩国病院呼吸器科

杉山 明
萩原秀紀
岡山大第1内科 田中紀章

55歳男性。昭和58年10月, 検診で異常陰影を指摘され入院。右S₆に20×13mmの腫瘤陰影を認め, 気管支鏡下擦過細胞診で小細胞癌と診断。T₁N₀M₀のため手術を考慮したが, ネフローゼ症候群, 洞不全症候群を併発していたため, 肺癌には,⁶⁰Coを原発巣に60Gy照射してCRとなり, 5年半寛解状態で治癒したと考えられる。ネフローゼにはジピリダモール, サイクロフォスファミド, ステロイドの併用で1年半後にネフローゼ状態を脱した。

6. 肺胞洗浄液中の腫瘍マーカーの検討

公立みつぎ総合病院内科

工藤恵三, 浜辺定徳, 安森 耕
渡辺章文, 福田博英, 田中義人
荒牧貴久
甲奴診療所 中村公彦
長崎大第2内科 原 耕平

今回我々は, 腫瘍マーカーとしてよく知られているCEA・SCC・NSEにおいて, 血清および肺胞洗浄液中の値を比較・検討した。対象は, 各種肺疾患患者31名, 平均年齢は63.4歳。CEA・SCC・NSEいずれも, 血清に比べ洗浄液の方が高い傾向を示したが, その間には, 相関は認められなかった。さらに腫瘍群・非腫瘍群にわけ比較・検討したところ, 血清の値は腫瘍群で, 各腫瘍マーカーとも非腫瘍群より高い傾向を示した。

7. BrdU(Bromodeoxyuridine) in vitro標識法による肺癌細胞動態の解析

岡山大第2外科 松浦求樹

原 享子, 市場晋吾, 青江 基
中田昌男, 伊達洋至, 木田孝志
青笹 徹, 前田宏也, 大森浩介
清水信義, 寺本 滋

細胞動態の一指標としてBrdU in vitro標識法(100 μmol/l, 60min)を原発性肺癌28例に行ない, 腫瘍細胞2000個以上に対するBrdU陽性細胞率をLabelling index (L.I.)とした。組織型別L.I.は, 腺癌(17)4.2%, 扁平上皮癌(7)10.8%, 腺扁平上皮癌(2)9.4%, 大細胞癌(1)8.0%, 小細胞癌(1)13.0%で, T・N因子や病期との間には関連は見られなかったが腺癌で分化度による差が見られ, 扁平上皮癌で胸膜浸潤陽性例にL.I.高値を示す傾向が見られた。

8. Ki-67を用いた肺癌症例の検討

岡山大第2外科 原 享子

松浦求樹, 市場晋吾, 青江 基
中田昌男, 青笹 徹, 木田孝志
前田宏也, 大森浩介, 清水信義
寺本 滋

当科にて切除された肺癌17症例を対象とし, 増殖期細胞の核